

## 琵琶湖疏水 主なできごと

- 1881 1881年(明治14年)  
北垣国道、京都府知事に着任
- 1883 1883年(明治16年)  
田邊朔郎、琵琶湖疏水工事の担当に着任
- 1885 1885年(明治18年)  
琵琶湖疏水(第1疏水大津～鴨川及び疏水分線)起工
- 1890 1890年(明治23年)  
琵琶湖疏水(第1疏水大津～鴨川及び疏水分線)竣工
- 1891 1891年(明治24年)  
蹴上発電所完成、送電を開始
- 1895 1895年(明治28年)  
京都電気鉄道伏見線開通
- 1908 1908年(明治41年)  
京都市三大事業  
(第2琵琶湖疏水の建設・上水道の建設・道路拡築及び電気軌道の敷設)起工
- 1912 1912年(明治45年)  
京都市三大事業  
(第2琵琶湖疏水の建設・上水道の建設・道路拡築及び電気軌道の敷設)竣工
- 1989 1989年(平成元年)  
琵琶湖疏水記念館開館
- 1996 1996年(平成8年)  
第1疏水関連施設の12箇所が国の史跡に指定
- 2007 2007年(平成19年)  
近代化産業遺産(経済産業省)に認定
- 2018 2018年(平成30年)  
びわ湖疏水船本格運航開始
- 2020 2020年(令和2年)  
**日本遺産認定**

1908年(明治41年) 岡崎公園で行われた京都市三大事業起工式の様子  
[田邊家資料]



### 日本遺産とは

文化庁が、地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として認定するものです。  
ストーリーを語るうえで不可欠な魅力ある有形無形の文化財群を総合的に活用し、国内外へ発信していくことで、文化財群を有する地域の活性化を図ることを目的としています。

日本遺産に認定された「琵琶湖疏水」の詳しい情報は、  
下記の琵琶湖疏水 日本遺産特設サイトからご覧いただけます。

琵琶湖疏水 日本遺産特設サイト

<https://biwakososui.city.kyoto.lg.jp>



琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会

令和6年3月発行

京都と大津を繋ぐ希望の水路

# 琵琶湖疏水

日本遺産  
認定

舟に乗り、歩いて触れる明治のひととき



## 1 京都と大津を繋ぐ「希望の水路」

千年以上にわたって日本の都であった京都は、明治維新における事実上の東京遷都によって人口が3分の1も減少し、「いずれ狐や狸の棲家になる」といわれました。そこで人々は京都と大津を繋ぐ「希望の水路」琵琶湖疏水の建設に、まちの再生の望みを託したのです。

第3代京都府知事の北垣国道の下、当時の京都府予算2年分もの莫大な工事費を要する前代未聞の大事業には、若い才能が抜擢されました。工事の担当者に工部大学校（現在の東京大学工学部の前身の一つ）を卒業して間もない田邊朔郎（当時21歳）を迎え、欧米の測量術を学んで実績を積んでいた島田道生（当時33歳）が精密な測量図を作成し、明治18（1885）年に工事が開始されました。

延べ400万人の作業員を動員し、約5年に及ぶ難工事の末、明治23（1890）年に、第1疏水が完成し、京都のまちは、復興の道を力強く歩み始めました。設計から施工まですべての工程を日本人の手で担った、日本最初の大土木事業でした。



北垣国道（左）と田邊朔郎（右）

## 2 暮らしとまちを大きく発展させた水力発電

第1疏水の完成により、最も人々の暮らしを変えたのは、当時の最先端技術であった水力発電でした。当初、琵琶湖疏水は水車動力に用いる計画でしたが、工事の途中、アメリカで水力発電の視察に赴いた田邊朔郎は、大きなひらめきを得ました。帰国後、田邊朔郎は北垣知事を懸命に説得し、工事の途中で、水力発電の実用化に踏み切ったのです。明治24（1891）年に蹴上で日本最初の一般供給用水力発電所が稼働すると、まちに電気が送られ、電灯を灯し、中小工場の機械化が大いに進んだほか、日本初となる電気鉄道の営業がスタートしました。

電力の需要は増大の一途をたどり、京都の経済や産業を発展させ、その後の工学、科学発展の礎となりました。また、医療や娯楽にも電気が活用され、人々の生活文化の向上に大きく貢献しました。



開通前日の試乗運転（京都電気鉄道）

## 3 琵琶湖から大阪までを繋いだ舟運

第1疏水から淀川に至ることで、大津から京都を経て大阪までの舟運が開き、物流の拡大によって、経済と産業の更なる発展に繋がりました。

その後、舟運は、陸上交通の発達と戦争の影響によって途絶えましたが、平成30（2018）年に、約70年ぶりに、観光船として復活しました。この「びわ湖疏水船」は、大津から蹴上までの第1疏水をたおやかに進み、舟に乗ることで、琵琶湖疏水の魅力を間近に感じられます。



舟運の様子（蹴上船溜）



# 水路旅

歴史をたどる

水路がつなぐ、  
明治のロマン

【田邊家資料】

真つ直ぐに伸びるトンネルの、遙か向こうのかすかな光。それは、明治期に成し遂げられた奇跡の光でした。今も京都に「命の水」を運び続ける琵琶湖疏水は、歴史の偉業を語り続けるトンネルを抜け、桜や新緑、紅葉に彩られる山裾を縫って、ゆるやかに進みます。約70年の時を経て復活した遊覧船「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くことで触れられるのは、明治の偉業から生まれた、京都と大津の知られざる魅力です。



【田邊家資料】

【田邊家資料】

## 4 防火用水と日本屈指の近代庭園群

琵琶湖疏水の水は、防火用水としても活用されました。疏水沿いに建つ旧御所水道ポンプ室は、かつて京都御所を火災から守るための施設として使われ、今でもその重厚感ある意匠を見ることが出来ます。

また、岡崎地域には近代における最高峰の作庭家 七代目植治こと小川治兵衛の手で、琵琶湖疏水の水を利用した庭園が造られ、日本屈指の近代庭園群が形成されました。第3代・9代内閣総理大臣 山縣有朋が京都の居所として活用した無鄰菴は、明治期を代表する庭園です。平安神宮神苑の池には、琵琶湖での確認が困難となっている絶滅危惧種のイチモンジタナゴが生息しています。



【植彌加藤造園】

名勝 無鄰菴の庭園

## 5 蹴上浄水場からの安全・安心な水道水の供給

「京都市三大事業」の一環として進められた第2疏水の建設は、明治45年（1912）年に完成し、同年には、豊富となった水資源を利用して、蹴上浄水場から日本初の「急流ろ過」方式による水道水の供給が始まりました。

琵琶湖疏水の発展の歴史の上に成り立つ水道・下水道は、今も休むことなく、暮らしを守り、京都の経済や産業、文化など、まちの活動を支えています。

京都の水道事業の発祥となった蹴上浄水場では、毎年、施設の一般公開を行っており、「つつじの名所」としても親しまれています。



現在の蹴上浄水場

## 6 時を超えて今も生き続ける琵琶湖疏水

京都を再生と飛躍に導いた琵琶湖疏水は我が国の近代化を伝える貴重な産業遺産であり、今も京都と大津を繋ぎ、まちと暮らしを潤し続けています。

琵琶湖疏水の穏やかな水の流れを「びわ湖疏水船」で遊覧し、四季折々の姿を見せる疏水の沿線や施設を歩くことで、明治の時代に、まちの再生の願いを託し、逆境と苦難を乗り越えた、この壮大な事業が、時を超えて今に息づいていることを、感じる事ができるでしょう。



びわ湖疏水船の運航



1 大津閘門

琵琶湖と疏水路を舟が行き来するときに、2つある門を順次開閉して水位差を調整し、舟を通す役割を果たしている。閘室など重要な部分に石材が用いられている他は、レンガで築かれており、使用したレンガは約60万個に達する。

360°VR映像



2 第1竖坑

第1疏水にある竖坑。深さ約47m。第1トンネル工事の際、山の両側から掘り進むほか、山の上から垂直に掘った穴からも両側に掘り進めて工期を早める「竖坑方式」を日本で初めて採用した。

360°VR映像



3 旧御所水道ポンプ室

第1疏水から大日山貯水池に水を上げるポンプを据え付けた建物。かつて、御所水道として、京都御所に防火用水を送水していた。明治期を代表する宮廷建築家であり、京都国立博物館や東京の赤坂離宮（現在の迎賓館）を設計した片山東熊と山本直三郎の作品である。円柱付きバルコニーなどを備えた重厚感ある意匠に仕上げている。

国指定登録有形文化財

国重要文化的景観

360°VR映像



4 蹴上浄水場 第1高区配水池

蹴上浄水場建設当初（明治45（1912）年）に造られたレンガ造りの配水池。蹴上浄水場には約4,900本のつつじが植えられており、多くの方に「蹴上のつつじ」として親しまれている。

国近代化産業遺産



5 蹴上インクライン

上流の蹴上船溜と下流の南禅寺船溜を結んだ全長約582m（建設当時世界最長）の傾斜鉄道。約36mの高低差を克服するために舟を台車に乗せ、ケーブルカーと同じ原理で運んだ。現在は、レールが形態保存されており、春には、インクライン両側の桜が咲き誇り、華やかな様相を見せる。

国指定史跡

国重要文化的景観

360°VR映像



6 蹴上発電所

疏水の水を利用し、明治24（1891）年に日本初の一般供給用水力発電所として運転を開始。現在は、明治45（1912）年に完成した2代目の建物が保存されている。

平成28（2016）年、世界的な電気・電子技術専門家組織IEEEが「IEEEマイルストーン」に認定。

国近代化産業遺産

国重要文化的景観

360°VR映像



360°VR映像



# ストーリーを構成する 40の名所・史跡

360°VR

## 360°VRスポット紹介

左記のアイコンが記載されている名所・史跡は高精度な360°VRでスポットの風景をご覧いただけます。

1

タブレットまたは、スマートフォンで二次元コードを読み取ります。



2

画面をドラッグし、アングルを動かし風景を見ることができます。



7

360°VR

水路閣

南禅寺境内にある琵琶湖疏水の水路橋。境内の景観に配慮し、田邊朔郎が設計・デザインを行った。レンガ、花崗岩造りのアーチ型の橋脚である。

国指定史跡

国重要文化的景観

360°VR映像



7 疏水分線

沿線各地への水力利用、かんがい用水、防火用水の供給を目的に設けられた水路。熊野若王子神社から銀閣寺に至る疏水分線沿いの遊歩道は、京都大学の哲学者 西田幾多郎らが思索にふけたとされることになみ、「哲学の道」と呼ばれている。

国重要文化的景観

8

8 鴨川運河

第1疏水のうち、鴨東運河の鴨川合流点から伏見区堀詰町までの全長約9kmの運河。大津から大阪までの舟運を開通するうえで、疏水を淀川に接続するための重要な区間となった。特徴ある橋が多く架かり、春には水面にせり出した桜が美しい。

9

10 扁額

第1疏水のトンネルなどに設置されている明治の元勳をはじめとする先人たちの揮毫（きこう）で、石に文字を彫り込んだ額。大津側は文字を掘り下げた陰刻、京都側は文字が浮き出る陽刻にされており、デザインにも趣向が凝らされている。

国指定史跡（一部未指定）



第3トンネル出口【美哉山河】

「美哉山河」（うるわしきかなさんが）  
【意味】なんと美しい山河であろう 【揮毫者】三条実美（初代内大臣）



第1トンネル内壁【寶祚無窮】

北垣国道（第3代京都府知事）



蹴上発電所【亮天功】

久邇宮邦彦王（皇族）



第1トンネル入口【氣象萬千】

伊藤博文（初代内閣総理大臣）



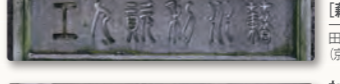
第2トンネル入口【仁以山悦智為水歡】

井上馨（初代外務大臣）



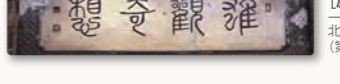
第3トンネル入口【過雨看松色】

松方正義（初代大蔵大臣）



疏水合流トンネル【藉水利資人工】

田邊朔郎（京都帝国大学理工科大学教授）



ねじりまんぼ西口【雄観奇想】

北垣国道（第3代京都府知事）



第1トンネル出口【廓其有容】

山縣有朋（初代内務大臣）



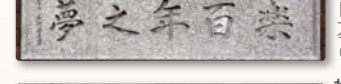
第2トンネル出口【隨山到水源】

西郷従道（初代海軍大臣）



第2疏水取水口【萬物資始】

久邇宮邦彦王（皇族）



扇ダム放水路出口【楽百年之夢】

今川正彦（第23代京都市長）



ねじりまんぼ東口【陽氣発処】

北垣国道（第3代京都府知事）



琵琶湖築地



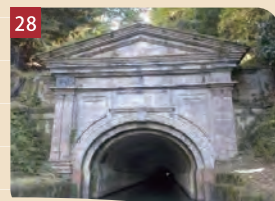
第1トンネル入口



四ノ宮船溜



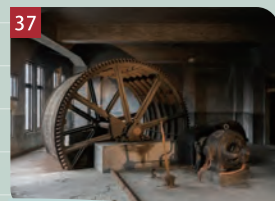
煉瓦工場跡



第3トンネル出口



ねじりまんぼ



蹴上インクライドラム工場



第1疏水取水口



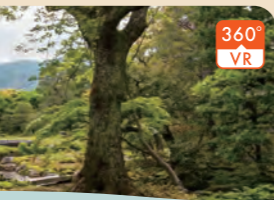
安祥寺船溜



第2トンネル入口



蹴上船溜



岡崎地域の庭園群



鴨東運河



第2疏水取水口と洞門



第1トンネル出口



山科疏水



日ノ岡第11号橋



北垣国道像及び田邊朗郎像



南禅寺船溜



蹴上インクライドラム工場



藤尾橋



東山自然緑地



山ノ谷橋



疏水工事殉職者弔魂碑及び殉職者之碑



琵琶湖疏水記念館所蔵資料



京都市営電車の車両と敷石



# ストーリーを構成する 40の名所・史跡

## 琵琶湖疏水記念館

### 明治時代にタイムスリップ!?

琵琶湖疏水って何?いつ、誰が、なぜ作ったの?... 琵琶湖疏水にまつわるいろんな疑問を解決できる博物館、それが琵琶湖疏水記念館です。蹴上インクライン上を舟を載せた台車が行き来していた様子が見られるミニチュア模型のほか、蹴上・岡崎エリアのジオラマやアーカイブ映像の視聴コーナーなどもあります。地下テラスの「そすいカフェ」では、疏水を眺めながら、コーヒー、軽食をお楽しみいただけます。(季節営業) 南禅寺水路閣や蹴上インクラインにお越しの際など、是非お気軽にお立ち寄りください!



開館時間: 午前9時~午後5時 ※入館時間は午後4時30分まで  
入館料: 無料  
休館日: 毎週月曜日 / 年末年始(12月29日~1月3日) ※月曜日が祝日・休日の場合は翌平日  
交通: 地下鉄東西線「蹴上」下車徒歩7分 市バス5系統「岡崎法勝寺町」下車徒歩4分

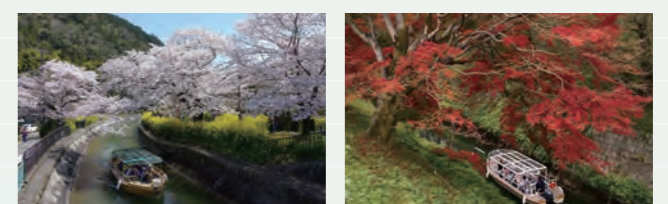


琵琶湖疏水記念館 ホームページ <https://biwakosui-museum.city.kyoto.lg.jp>

## びわ湖疏水船

### 観光船で琵琶湖疏水を満喫

平成30年、約70年ぶりに復活した疏水を走る観光船、「びわ湖疏水船」は、春と秋の観光シーズンに水上から綺麗な桜と紅葉を見ることができるとあって大人気。自然風景だけでなく、明治期の偉人が揮毫したトンネル出入口の「扁額」や赤レンガ造りの「旧御所水道ポンプ室」などを間近で見ることができます。とりわけ全長2,436mに及ぶ第1トンネルでは、ほとんどの作業を人力で行った先人たちの苦勞を肌で感じることができます。専門ガイドによる案内を聞きながら、明治に想いを馳せる旅に出かけましょう!



運航時期: 春(3月~6月) / 秋(10月~11月)  
乗下船場: 大津港・三井寺・山科・蹴上(4か所)  
運航ルート: 下り(大津港~三井寺~山科~蹴上) 上り(蹴上~三井寺~大津港)  
定員: 下り12名/上り9名  
運航料金: 時期により変動 ※完全予約制



びわ湖疏水船ホームページ <https://biwakosui.kyoto.travel/>

